学校教育目標

自他を想い、高め合い、自律できる八幡小の子どもを育てる。
〈合い言葉：心のものさし〉

令和６年　８月　２１日
八幡小学校・八幡幼稚園
校長･園長　　芝　　隆 志

観音竹（かんのんちく）（学校便り）　パートⅡ

～校長室からの臨時便り（校長の思うことあれこれ）です。（不定期）

本日の全校朝会で 子どもたちに 読んで 紹介しました。私たち職員も、夏休み中に人権同和教育の研修の一環で、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館が実施している被爆体験伝承者の方を本校に講師としてお招きし、およそ二時間の講話をしていただき、全職員で、「広島に学び、平和を感じ合う」研修をしたところです。

各ご家庭におかれましても、「平和の尊さや命の重み」について、お子さんと語り合い、私たちにできる平和の一歩について考える機会としていただけるとありがたいです。

「平和への誓い」全文

1面参照

目を閉じて想像してください。

緑豊かで美しいまち。人でにぎわう商店街。まちにあふれるたくさんの笑顔。

79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな日常がありました。

昭和20年（1945年）8月6日　午前8時15分。

「ドーン！」という鼓膜が破れるほどの大きな音。

立ち昇る黒味がかった朱色の雲。

人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。

ある被爆者は言います。あの時の広島は「地獄」だったと。

原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまったのです。

被爆者である私の曽祖母は、当時の様子を語ろうとはしませんでした。

「平和への誓い」を朗読する加藤晶さん（右）と石丸優斗さん＝6日午前8時31分、広島市の平和記念公園

言葉にすることさえつらく悲しい記憶は、79年たった今でも多くの被爆者を苦しめ続けています。

今もなお、世界では戦争が続いています。

79年前と同じように、生きたくても生きることができなかった人たち、明日を共に過ごすはずだった人を失った人たちが、この世界のどこかにいるのです。

本当にこのままでよいのでしょうか。

願うだけでは、平和はおとずれません。

色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。

一人一人が相手の話をよく聞くこと。

「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。

仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。

私たちにもできる平和への一歩です。

さあ、ヒロシマを共に学び、感じましょう。

平和記念資料館を見学し、被爆者の言葉に触れてください。

そして、家族や友達と平和の尊さや命の重みについて語り合いましょう。

世界を変える平和への一歩を今、踏み出します。

令和6年（2024年）8月6日

こども代表

広島市立祇園小学校6年　加藤晶

広島市立八幡東小学校6年　石丸優斗

令和６年８月７日（水）南日本新聞記事より